

各関係機関団体の長
各病虫害防除員

} 殿

福岡県農林業総合試験場長
(福岡県病虫害防除所)

令和 5 年度病虫害発生予察注意報第 1 号について

このことについて、病虫害発生予察注意報第 1 号（ハスモンヨトウ）を発表したので送付します。

本年は、9～10月にハスモンヨトウのフェロモントラップ誘殺成虫数の増加が顕著な地域が見られました。また、9月以降、大豆、定植直後のイチゴやキャベツでハスモンヨトウの被害が多く見られました。

向こう 1 か月の気象予報でも、平年に比べて気温が高いとされており、今後も露地野菜及び施設野菜の被害の多発が懸念されます。また、施設においては発生が長期化しやすいので注意してください。

11月は、野菜にとってハスモンヨトウを含めチョウ目害虫の重要な防除時期です。各ほ場における発生状況に応じて適期防除を心掛けましょう。

注意報第 1 号

1 対象作物名：野菜類

2 病虫害名：ハスモンヨトウ

3 発生状況

- (1) 9月1半旬の筑後市、行橋市においてハスモンヨトウ成虫のフェロモントラップへの誘殺数が平年より多かった。さらに、筑後市では、9月5半旬において平年より非常に高かった（図1）。
- (2) 大豆の9月5半旬調査では、ハスモンヨトウの10株当たり払い落とし幼虫数は6.7頭（平年6.2頭）と多く、発生ほ場率も91.7%（平年61.4%）と、平年より多発していた（図2）。
- (3) キャベツの10月5半旬調査ではハスモンヨトウ寄生株率が2.0%（平年0.5%）、発生ほ場率42.9%（平年18.0%）と高かった（図3）。
- (4) イチゴの10月5半旬調査では、ハスモンヨトウ寄生株率が平年より高く、チョウ目被害株率も平年より高かった（図4、5）。

4 防除上注意すべき事項

- ア 地域によって発生量に差があるため、ほ場の発生状況に注意し、発生初期の防除に努める。
- イ 薬剤防除は若齢幼虫を対象に実施する。秋冬期は齢期が揃っていないので、複数回防除を行う。
- ウ 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統薬剤の連用は避け、ローテーション散布する。

エ 施設栽培の場合は、ハウスの開口部に防虫ネットを張り、成虫の飛び込みを防止する。
 オ 本年の大豆、野菜類のハスモンヨトウの発生状況については令和5年度発生予察技術情報第3号、第4号でも発表している。

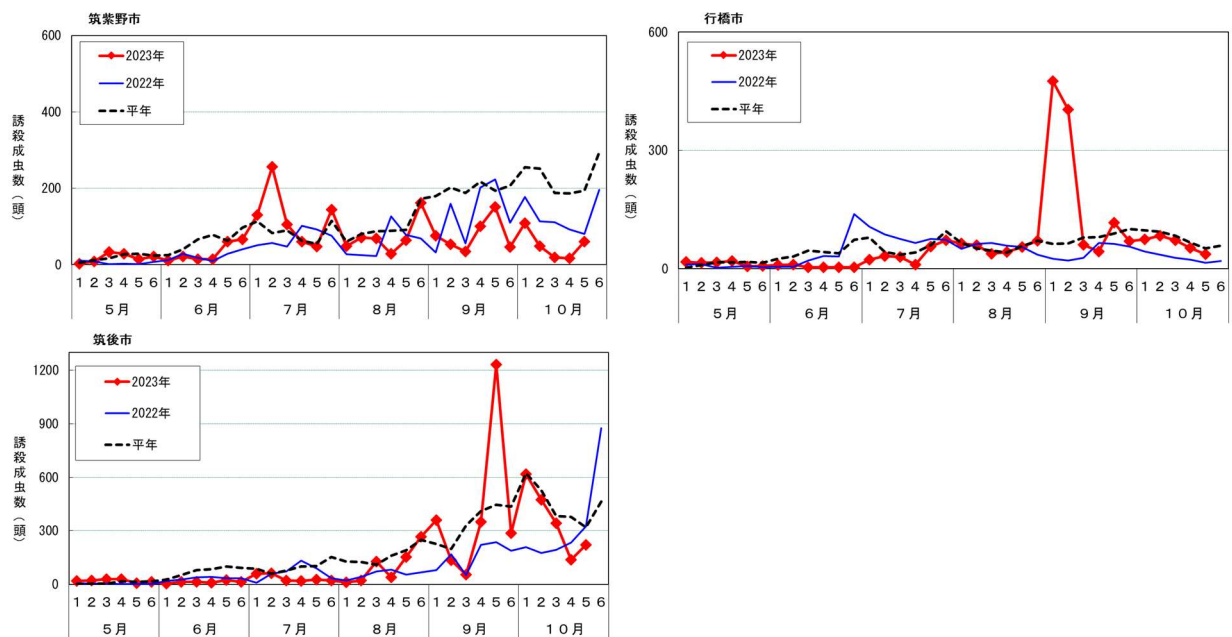


図1 フェロモントラップにおけるハスモンヨトウの誘殺成虫数の推移

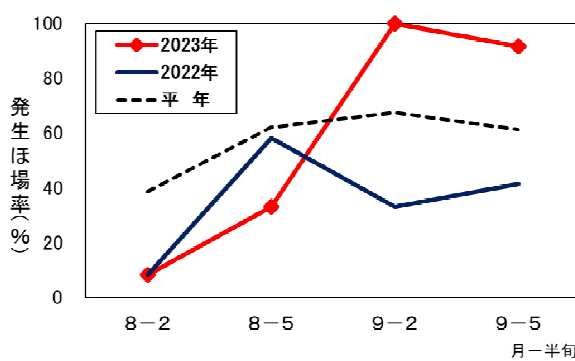


図2 大豆におけるハスモンヨトウ幼虫発生ほ場率

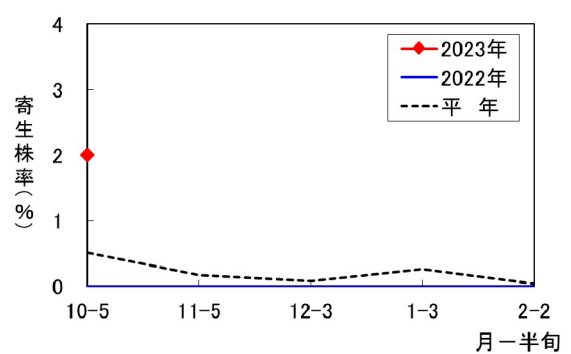


図3 キャベツにおけるハスモンヨトウ寄生株率

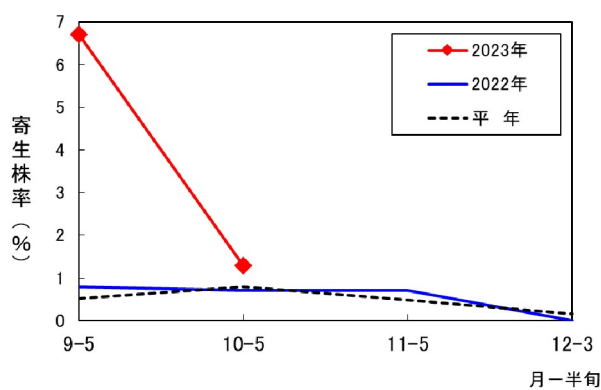


図4 イチゴ本ぽにおけるハスモンヨトウ寄生株率

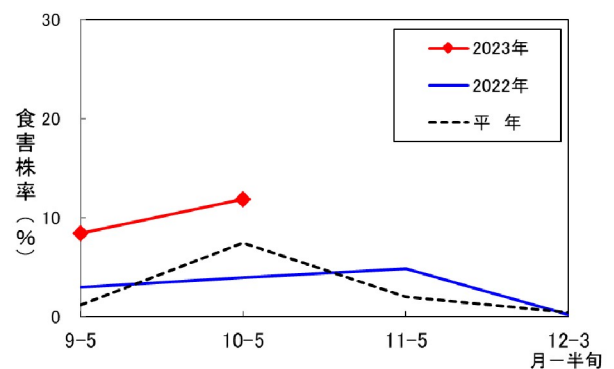


図5 イチゴ本ぽにおけるチョウ目害虫食害株率

病虫害防除所のホームページでは、各種病虫害の発生状況を随時更新しています。
発生状況の把握や防除の参考にご利用下さい。

○福岡県病虫害防除所のホームページへのアクセス

URL: <http://www.jppn.ne.jp/fukuoka/> または右QRコード①

○X（旧 Twitter）で定期情報や警報等発出のお知らせを始めました。

X（旧 Twitter）の本アカウント（福岡県農作物病虫害情報）へのアクセス

URL : https://twitter.com/PPDPO_Fukuoka または右QRコード②



最新の病害虫発生状況

